

ハイブリッドのインド綿をやさしく手摘み

Mahal[®]

マハール

インドは綿花の栽培品種数が非常に多く、常に品種改良と変更が進んでいます。ハイブリッド技術も進歩も目覚しく、短繊維綿から超長繊維綿まで優れた品質を確保しています。このインド綿の特徴は天然のロウ分を多く含んでいることによる独特の光沢感としなやかさを持っていることや収穫ではハンドピック、綿繰りではローラーズを採用することで繊維へのダメージを少なくしていることにあります。マハールは数あるインド綿のなかでも細番手クラスにも使われる長綿をセレクトした綿糸です。ダイワボウの技術とインド5000年の綿花栽培の歴史が一味違ったテキスタイルを提供します。

■インド綿豆知識

優性交配

農作物で、五世代連続同一系統のものを栽培すると、退化が起こり品質が劣化する。これを防止するため、常に優良品種間の交配と個体選別を繰り返して、優良品種の性質を維持している。

有効繊維長

綿は天然繊維のため実際に使用する際に短い繊維を取り除く、この短い繊維を除去した後の平均繊維長。

長繊維綿

綿の中で有効繊維長28.6mm以上のもの。

ハンドピック

綿花の収穫の際に人手で手摘みすること。繊維の傷みが少なく、高級綿花には適している。

ローラーズ

綿花をワタと種に分離する機械(通称:綿繰り機)には、ソウジンとローラーズがある。生産性は高いが繊維を傷めやすいソウジンに比べて、ローラーズは繊維に与えるダメージが少なく、高級綿に適している。